

カギカズラの生薬原料の収穫調査と剪定を行いました

令和3年1月13日

カギカズラはアカネ科のつる性樹木で、かぎ爪状の構造を持つ枝は釣藤鈎（チョウトウコウ）と呼ばれる生薬として、ストレス・高血圧症・認知症周辺症状に緩和効果のある漢方薬に利用されています（詳細は林木育種の現場から 2019 年 7 月 22 日付「[カギカズラの花が咲きました](#)」を御覧ください）。森林バイオ研究センターではこれまで国内各地に自生しているカギカズラを採取し、組織培養による増殖を行ってきました。そのうちの 25 系統を関西育種場四国増殖保存園に植栽し、成長量や生薬原料の収穫量について比較調査を行っています。

去る令和2年11月30日から12月4日にかけて、植栽3年目となる個体（写真1）について枝の収穫と剪定を実施しました。生薬原料にはカギ付き枝のみが利用されるため、一本ずつ手作業で葉を取り除く必要があり、収穫には大変手間がかかります（写真2）。収穫後は膝上程度の高さで枝を切り落して剪定し（写真3）、今年は雑草防除の目的で防草シートを設置しました。写真4のようにかなり小さく仕立直しますが、カギカズラは成長が旺盛なため1年後には今年と同様立派な枝葉を伸ばすでしょう。

国産カギカズラの栽培化と普及を目指し、今年度より「国産のつる性薬用樹木カギカズラの生産技術の開発と機能性解明に基づく未利用資源の活用」プロジェクトを立ち上げ、生研支援センターのイノベーション創出強化研究推進事業に採択されました。本プロジェクトでは今回得られたようなデータを駆使して優良系統を選抜するだけでなく、産学官が連携して、栽培・収穫・加工調整の技術開発や漢方薬の試作、廃棄している葉をお茶として新たに有効活用する研究等に取り組んでいます。



写真1 カギカズラ試験園



写真2 収穫した枝から葉を取り除きます

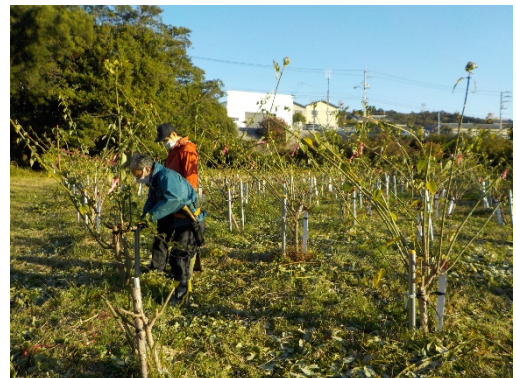


写真3 収穫後に剪定します



写真4 防草シートを張りました

（森林バイオ研究センター・関西育種場）